

特許庁  
実用新案公報実用新案出願公告  
昭41-19182  
公告 昭41.9.7  
(全2頁)

## 排出煙害防止装置

実願 昭39-8312  
 出願日 昭39.2.7  
 考案者 出願人に同じ  
 出願人 勝木一  
 船橋市前原町3の203

## 図面の簡単な説明

図面はこの考案に係る排出煙害防止装置の縦断側面図である。

## 考案の詳細な説明

この考案は煙突から排出される煙、その他エンジン等からの排気ガスを導入し、浄化して放出する装置に関するものである。

図面について説明すると、1は器体で、2は煙や排気ガスの導入管で、器体1の底部に設置し、先端を閉塞して下面に多数の放出孔3を開設する。4は器体1の底部に適量収容した一酸化炭素を溶解する苛性ソーダ等の溶液層、5はその上方に適量収容した重油又は廃油等の油層である。6は器体1に取付ける円錐状その他函状にした蓋で、この蓋6内には、ウール、硝子ウール8が填充され、上部に排気管7が取付けられている。

導入管2はなるべく冷却装置を介して煙突又は走行車等のエンジンの排気口に連結する。導入管2に導入される煙、排気ガスは放出孔3から器体1の下底部に放出させる。放出された煙、排気ガスは溶液層4、油層5中を上昇する。

煙や排気ガス中に含有されている一酸化炭素等は溶液に溶解され、煤分は油層5内を通過する間に溶解混合される。一酸化炭素、煤分が除去された気体は更に上昇して、ウール8間を通過して排気管7から排出されるので、このウール8間の通過で、気体が含有して霧状分は除去され、浄化された気体のみ排出管7から排出されるのである。

従つて、この装置を煙突又はエンジン等に附設すれば、煙や排気ガス中に含有されている一酸化炭素や煤分を完全に除去して排出するので、これら煙や排気ガスによる害毒を防止することができると共に、消音効果もあり、構成が比較的簡単で設置も容易である等の効果がある。

## 実用新案登録請求の範囲

器体1内に苛性ソーダ等の溶液層4と油層5とを形成させて内底部に煙や排気ガスの導入管2に導入して下面に放出孔3を設け、油層5の上方にはウール層8を介装し、排気管7を設けてなる排出煙害装置。

